

■著者紹介

金 尚均 (きむ・さんぎゆん)

第I部

立命館大学大学院法学研究科博士後期課程中退

現在, 龍谷大学大学院法務研究科教授

〔主要業績〕

『ドラッグの刑事規制』(日本評論社, 2009年)

『危険社会と刑法』(成文堂, 2001年)

辻本 典央 (つじもと・のりお)

序章・第II部

京都大学大学院法学研究科博士後期課程中退

現在, 近畿大学法学部教授

〔主要業績〕

『刑事訴訟法教室』(法律文化社, 2013年/共著)

Eine inhaltliche Analyse der Verständigung im deutschen Strafprozess aus der

Perspektive eines Außenstehenden, Zeitschrift für Internationale

Strafrechtsdogmatik (ZIS), 2012, S. 612

武内 謙治 (たけうち・けんじ)

第III部 (第21・22章)

九州大学大学院法学研究科博士後期課程修了/博士(法学)

現在, 九州大学大学院法学研究院准教授

〔主要業績〕

『少年司法における保護の構造』(日本評論社, 2014年)

『少年事件の裁判員裁判』(現代人文社, 2014年/単編著)

山中 友理 (やまなか・ゆり)

第III部 (第19・20章)

ミュンヘン大学法学博士号取得/法学博士

現在, 関西大学政策創造学部准教授

〔主要業績〕

Maßnahmen gegenüber psychisch kranken Straftätern: Ein Vergleich zwischen

Deutschland und Japan (Müchner Juristische Beiträge Bd. 71), Utz Verlag,

München, 2008

『ドイツの性犯罪対策』岩井宜子編『性・犯罪——実態と対策』(尚学社, 2014年)